

コミュニティ・スクールの取組を進める8つの重点項目の取組状況調査から

本市では、コミュニティ・スクールの取組を進めるため、学校における8つの重点項目を設定しています。各学校の取組状況を調査しましたので、その結果を含め今後の課題についてまとめました。

1 地域学校協働活動の推進

- (1)十分なコロナ感染防止対策を講じた上での協働活動の創意工夫と大人の学び、交流の場づくりの促進
- (2)地域学校協働活動推進員・社会教育推進委員会等との連携・協働
- (3)児童生徒の地域貢献意識の向上をめざす活動を明確に位置づけた学校・地域連携カリキュラムの充実・実施
- (4)小中高連携による幅広い世代での協働活動の推進
- (5)「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の一体的な推進への理解促進

2 学校運営協議会の一層の充実

- (1)児童生徒の参画による熟議の充実と学校課題解決の推進
- (2)女性、若手など多様な地域人材を活用した協議会の活性化と継続的な人材育成

3 保護者・地域に届く情報発信の充実

- (1)直接的・間接的な情報発信の工夫によるコミュニティ・スクールの取組の浸透

1(1) 新型コロナウイルス感染拡大下、各校ともに工夫しながら進めており、取組数や来校者数も昨年に比べ増加しています。5月にも予想される感染症の新たな対応方針に沿いながら、地域の大人の学び・交流の場としての学校の役割を果たしていくことが求められます。



1(2) 協働の核となる地域学校協働活動推進員、推進組織である社会教育推進委員会の取組が進み、協働活動が深まる地域が増えてきました。推進員との日常的な協議を進めていきましょう。

1(3) 地域貢献意識の育成に向け、小学校での総合的な学習を核とした地域教材を活用した学習が充実してきました。今後はそれに続く中学校での地域学習の充実が求められます。連携カリキュラムに明確に位置付けて、小中学校で一貫した地域学習を計画的・持続的に進める必要があります。

1(4) 小中学校の連携のみならず、高校生、大学生など幅広い若者との連携協働は、地域活動を活性化していくうえでも重要な課題です。中高の生徒会同士の連携や地域の卒業生としての若者を巻き込む活動を学校や地域で工夫していくことが求められます。

1(5) 「学校を核とした地域づくり」は今後の地域における社会教育の大変重要な課題です。各地域における地域学校協働活動を核として学校教育と社会教育の一層の連携・協働を図っていかねばなりません。教職員の地域貢献の在り方（日々の授業における地域学習の充実）の理解浸透も重要です。

2(1) 本年度、全ての小中学校で児童生徒が学運協へ参加し、委員との熟議を行いました。熟議したことの実現を進めるとともに、より多くの児童生徒の参加を工夫していくことが次の課題です。

2(2) 若い世代の参画、女性比率の増加など、より多様な委員の参画を図り、学運協の活性化を図っていくことが大切です。持続可能な組織運営のためにも、人材育成も継続的に進める必要があります。

3(1) 学校ホームページでの情報発信が充実してきました（特に小学校）。コロナ感染症への対応の変更を見据え、参観日や協働活動の実施など直接的な情報発信にも一層力を入れ、保護者や地域住民への協働活動参画意識の高揚を図ることが求められます。

コミュニティ・スクールに関する活動情報をお寄せください。本課ウェブページ更新に活用します。

宇部市教育委員会コミュニティスクール推進課

Tel 0836-37-2780 E-mail: ed-shakai@city.ube.yamaguchi.jp